

「スポーツの絆が生きるまち推進プラン」京都市市民スポーツ振興計画（追補版）

1 はじめに

京都市では、「スポーツの絆が生きるまち推進プラン」京都市市民スポーツ振興計画（計画期間：平成23年度～32（令和2）年度）を策定し、「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「支えるスポーツ」それぞれの観点から施策を展開し、市民スポーツの振興を推進してきました。

計画の終期近くとなった令和元年度末頃から新型コロナウイルス感染症がまん延し、市民のスポーツ活動にも大きな影響を与えたことから、次期計画はその影響を踏まえて策定することとし、現行計画の期間を令和3年度末まで1年間延長することとしました。

その後も新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、ウイズコロナ・ポストコロナ社会でのスポーツ振興の在り方について検討を進める必要があることから、そしてまた、持続可能な行財政の実現を目指し策定された行財政改革計画の趣旨も踏まえ、現行計画の期間を更に延長することとし、上位計画である京都市基本計画「はばたけ未来へ！京プラン2025」（以下「京プラン2025」といいます。）の期間に合わせて令和7年度までとしました。

期間の延長に当たっては、本計画の目標を京プラン2025で進化させた目標に合わせるとともに、国の第3期スポーツ基本計画の検討状況や本市を取り巻く状況の変化等を踏まえウイズコロナ等の新たな課題に対応するための施策を追加し、重点戦略についても深化を図りました。現行計画の施策と併せて取り組むことで、引き続き市民スポーツの振興を推進していきます。

2 延長後の期間

令和7（2025）年度まで

3 計画改定（平成28年3月）以降の社会状況の変化と新たな課題

期間延長に当たり、現行計画改定以降の社会状況の変化（国の動向、本市を取り巻く状況の変化など）や、新型コロナウイルス感染拡大の影響等も含め実施した市民アンケート調査、スポーツ関係団体へのヒアリング調査の結果等から、次のような課題を抽出しました。

○新型コロナウイルス感染症のまん延

- ・ウイズコロナ・ポストコロナ社会での市民スポーツの振興（京都マラソンをはじめ、コロナ禍で大きな影響が生じているスポーツ活動の振興）
- ・地域等における仲間と運動・スポーツをする機会の大幅な減少

○本市の危機的な財政状況

- ・事業の見直しや民間活力の最大限の活用
- ・スポーツと他分野との融合による新たな価値の創造

- ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピックの開催並びにワールドマスターズゲームズ2021 関西の再延期
 - ・市民のスポーツへの関心と機運の高まりを捉えた市民スポーツの振興
 - ・アーバンスポーツにおいて増加する競技人口への対応
 - ・パラスポーツへの関心の高まり
 - ・再延期となったワールドマスターズゲームズ2021 関西の機運醸成に向けた継続的な取組
- レジリエンス・SDGsの取組
 - ・少子高齢化や地域コミュニティの低下などの社会環境の変化（指導者やボランティア等の担い手不足への対応など）
 - ・ウイズコロナや危機的な財政状況の中でも将来にわたり市民のスポーツ振興を推進していける仕組みの整備
 - ・スポーツ団体同士のつながり・連携の充実
 - ・スポーツによる共生社会の推進
- スポーツにおけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
 - ・デジタル技術の効率的、効果的な活用による市民スポーツの振興
- スポーツの成長産業化
 - ・国におけるスポーツの成長産業化の取組として、他産業との融合による新事業創出やスポーツツーリズムを推進
- 運動部活動改革の推進と地域における子ども・若者のスポーツの機会の充実
 - ・令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けた指導者等の人材確保など地域の受皿整備

4 市民スポーツ振興の目標

(1) 目指すべき姿（目標）

現行計画で掲げる「みんなでめざす10年後の姿」の3つの目標については、京プラン2025で「みんなでめざす2025年の姿」として、これらを進化させた3つの目標を掲げたことに伴い、京プラン2025の目標を本計画の目標とします。

○現行計画に掲げる10年後（平成32（令和2）年度）の姿（目標）

1 それぞれの年齢や個性，環境に応じてスポーツを楽しんでいる

市民が，それぞれの年齢や個性，環境に応じて，スポーツやレクリエーションを楽しめる機会の提供や施設整備により，スポーツやレクリエーションを楽しむことができている。

2 トップレベルのスポーツに身近に触れられている

市民が，プロスポーツをはじめ，トップレベルのスポーツに身近に触れることができている。

3 多様なスポーツ活動を支え合い，ひととひととがつながっている

市民が，相互に多様なスポーツ活動を支え合い，スポーツを通じてひととひととがつながっている。

進化

○京プラン2025に掲げる2025年の姿 ⇒ **本計画の目標とする。**

1 スポーツを楽しみ，スポーツを通して健康で心豊かな暮らしを築いている

市民がそれぞれの個性，関心等に応じて生涯にわたって自発的にスポーツを楽しむことができる環境が整備されることで，スポーツを通して健康で心豊かな暮らしを築くことができている。

2 スポーツを通して，多様な人と人とがつながっている

市民が年齢，性別，障害の有無などにかかわらず，スポーツを楽しみ，その活動を支え合うことで，スポーツを通して互いの人格を尊重し，多様な人と人とがつながっている社会を築くことができている。

3 スポーツを身近に感じ，スポーツがまちの魅力を高めている

市民がプロスポーツをはじめ，トップレベルのスポーツに身近に触れることができ，スポーツが文化，産業，観光，環境，教育など，さまざまな分野とつながることで，まち全体の魅力を高めることができている。

(2) 目標の実現に向けた取組の推進と評価手法

ア 数値目標

現行計画に掲げる3つの数値目標については、これまでの取組の結果、計画策定時からいずれも実績値は上昇しましたが、コロナまん延前（令和2年2月）時点でも、目標値には届いていません。また、コロナ禍（令和2年3月以降）では、その影響を大きく受け、全ての実績値が低下しています。こうした状況を踏まえ、数値目標は据え置くこととします。毎年度、市民アンケート等で実績値を把握し、京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議において進捗状況を確認しながら、目標値の達成に向けて取組を推進していきます。

（現行計画の3つの数値目標と実績値の推移）

数値目標	計画策定時	中間改定時	令和2年度
【するスポーツ】 週1日以上運動やスポーツをする市民の割合 目標値：65%以上 （令和2年度）	48.4% （平成22年度）	53.2% （平成27年度）	コロナ前 63.4% コロナ禍 58.1% （令和2年度）
【みるスポーツ】 市内で直接スポーツを観戦した市民の割合 目標値：50%以上 （令和2年度）	24.4% （平成22年度）	38.2% （平成27年度）	コロナ前 27.8% コロナ禍 7.5% （令和2年度）
【支えるスポーツ】 スポーツ活動にボランティアとして参加した市民の割合 目標値：10%以上 （令和2年度）	3.1% （平成22年度）	4.4% （平成27年度）	コロナ前 7.7% コロナ禍 2.3% （令和2年度）

イ 市民生活実感評価

数値目標に加え、毎年度、政策評価制度における市民生活実感評価により、市民にどのように実感されているかを確認しながら、より良い評価を得られることを目指していきます。

（市民生活実感評価指標）

指標	令和3年度評価結果
市民がスポーツを楽しみ、健康で心豊かに暮らしている（目標1）	c
市民がスポーツを楽しんだり、スポーツを支える活動を通じて、様々な人と人がつながっている（目標2）	c
市民がスポーツに身近に触れる機会があり、スポーツがまちの魅力を高めている（目標3）	d

〔評価 大変良い状況にある（a）、やや良い状況にある（b）、どちらとも言えない（c）、やや悪い状況にある（d）、大変悪い状況にある（e）〕

5 追加施策等

計画改定（平成28年3月）以降の社会状況の変化等から生じた新たな課題等に対応していくため、引き続き現行計画に掲げる施策を推進するとともに、新たに7つの施策と、施策の推進に当たり基本として踏まえる「共通の視点」を追加、更には重点戦略の深化を図り、併せて取り組むことで、本計画の目標に掲げる2025年の姿（「スポーツを楽しみ、スポーツを通して健康で心豊かな暮らしを築いている」、「スポーツを通して、多様な人と人とが繋がっている」、「スポーツを身近に感じ、スポーツがまちの魅力を高めている」）の実現を目指していきます。

【共通の視点】

○ 市民のスポーツへの関心と機運の高まりを捉えた市民スポーツの振興

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催等により市民のスポーツへの関心と機運は高まっており、引き続きこうした国内外でのスポーツイベント開催等の機会を的確に捉え、市民スポーツの振興につなげていきます。

○ 都市の成長戦略につながる取組の推進

スポーツを通じた各種団体間の交流・協力・連携を促進するとともに、スポーツと文化・産業をはじめとした他分野との連携やマッチングを進めることで、新たな価値の創造や地域活性化を進め、ひいては都市の成長戦略にもつなげていきます。

【追加施策】

「するスポーツ」（それぞれの年齢や個性、環境に応じてスポーツ・レクリエーションを楽しんでいるまちづくり）

○ スポーツ施設の整備・運営における民間活力の更なる活用促進

本市の危機的な財政状況においても、費用負担を抑えながら施設の整備・改修を進めるとともに、管理運営費も含めた経費削減を図るため、民間活力の導入・活用促進に向けた検討を進めます。

○ アーバンスポーツを楽しめる環境づくりの推進

東京2020オリンピックの開催を受けて、注目が高まっているスケートボードなどのアーバンスポーツについて、関係団体等とも連携しながら、マナーを守って安全に楽しむことができる環境づくりに取り組みます。

○ ウイズコロナ・ポストコロナ社会での市民スポーツの振興

スポーツ施設における感染拡大防止対策を徹底するなど、市民が身近で安心・安全にスポーツ活動に取り組める環境を提供します。

市民スポーツの普及・振興に大きな役割を果たしている体育振興会やスポーツ推進指

導員等と更なる連携を図り、ウイズコロナ・ポストコロナ社会における市民スポーツの振興に取り組みます。

「するスポーツ」「みるスポーツ」「支えるスポーツ」のそれぞれに大きな役割を果たしている京都マラソンについて、ウイズコロナ・ポストコロナ社会に適合し、安心・安全な大会を開催するとともに、魅力を一層高め、更なる進化を図ります。

密になりにくいアウトドアスポーツとして、トレイルやサイクリングなどを推進し、健康づくりに加えて、京都の新たな魅力を体感・発見できる機会にもつなげます。

○プロチームをはじめとする地域密着型スポーツチームと連携した地域活性化の推進

「京都市スポーツを活かしたまちづくり推進庁内連携チーム」による取組など、京都サンガF.C. や京都ハンナリーズをはじめとしたスポーツチームとの連携・協力を一層進め、市民と共に盛り上げることを通じて市民スポーツの振興を図るとともに、地域との連携を更に深め、地域活性化にもつながる取組を進めます。

○ICTを活用したスポーツの推進

国のスポーツにおけるDXの動向や、コロナ禍でのおんらいん京都マラソンの実施及びおうちで簡単体操動画（作成：京都市体育振興会連合会）などの取組の成果も踏まえながら、ICTを活用したスポーツの推進に取り組みます。

「みるスポーツ」（様々なタイプのスポーツイベントに身近に触れられているまちづくり）

○ウイズコロナ・ポストコロナ社会での市民スポーツの振興〈再掲〉

○プロチームをはじめとする地域密着型スポーツチームと連携した地域活性化の推進〈再掲〉

「支えるスポーツ」（多様なスポーツ活動を支え合っているまちづくり）

○体育振興会・スポーツ推進指導員の更なる活性化

地域におけるスポーツ振興の原動力である体育振興会及びスポーツ推進指導員について、若い世代をはじめとする新たな参加者や担い手の確保など、更なる活性化に向けた取組を進めます。

○運動部活動改革の推進と地域における子ども・若者のスポーツ機会の充実に向けた検討

令和5年度以降の中学校等の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、スポーツ庁に「運動部活動の地域移行に関する検討会議」が設置され、「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」で示した方針の具体化に向けた検討に着手されています。

今後、当検討会議で提言される方向性・方策を踏まえ、教育委員会をはじめとする関係部署と連携して、指導者等の人材確保、指導力向上など地域の受皿整備に向けた検討を行います。

○ウイズコロナ・ポストコロナ社会での市民スポーツの振興〈再掲〉

○プロチームをはじめとする地域密着型スポーツチームと連携した地域活性化の推進〈再掲〉

6 計画推進のための重点戦略について

○ハードウェア（スポーツインフラ京都）

スポーツ施設の充実、整備、柔軟な運営に取り組む「スポーツインフラ京都」については、この間、府市協調によるたけびスタジアム京都の計画的改修や横大路運動公園の再整備、宝が池公園運動施設体育館の整備等のほか、ネーミングライツなど民間活力を活かした施設の改修等を行うとともに、指定管理者と連携した柔軟な施設運営にも取り組んでいるところです。

現在の本市の危機的な財政状況の中、民間活力を活かした取組を更に進めることにより、費用負担を抑えながら、スポーツ環境の充実を図っていきます。

○ソフトウェア（スポーツウェブ京都）

スポーツの情報を身近なものとして、誰もが容易に入手できるためのスポーツ情報網「スポーツウェブ京都」の整備については、平成29年3月にウェブサイト「スポーツウェブ京都」を立ち上げ、情報発信に取り組んできましたが、利用者の状況や運営コスト等を総合的に勘案したうえで、令和3年4月から京都市情報館に移行し、発信しています。

この間の取組やICT化の進展、また、利用者のニーズ等も踏まえながら、次のステップとして、必要な情報にアクセスしやすく、情報を容易に入手できるプラットフォームなどの仕組みづくりを進めていきます。

○ヒューマンウェア（スポーツリエゾン京都）

スポーツ以外の分野の団体や企業、大学等も含め、各種団体間の交流を促進し、相互に連携・協力する関係を築いていくことで、スポーツの活性化やスポーツを通じたまちづくりを進める「スポーツリエゾン京都」については、これまでから啓発活動やイベントでのブース出展、交流会の開催など、団体間の交流を促進するための取組を推進してきました。

これまでの取組やICTの進展、「京都市スポーツを活かしたまちづくり推進庁内連携チーム」の発足などといった状況の変化も踏まえ、スポーツ関係団体や民間企業、大学等の間の情報共有や連携の促進に向けた懇談会を開催するなど、プラットフォームづくりに取り組んでいきます。

7 今後の展望について

本計画の推進とともに、ウイズコロナ・ポストコロナ社会でのスポーツの振興を見通した長期的展望とそのために必要な取組について、市民の声も聴きながら、スポーツ関係団体等との意見交換や京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議での議論を重ね、検討を進めていきます。